

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400197		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ市原		
所在地	千葉県市原市東国分寺台1-11-7		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成31年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のレクリエーションと体操の実施を全職員で共有して提供すること。 ・月に最低でも4回は2ユニット合同でレクリエーションやイベントを実施して、ご利用者の皆様に楽しんでいただけるようにすること。 ・グループホームではあるが、有料老人ホームに近い綺麗な環境や部屋の提供ができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1)管理者は「職員あってこそその入居者への介護」との認識を強く持ち、職員の育成とベクトルを揃えることに力を入れている。2)職員個々の専用ファイルに、ミーティングや研修レジメとともに職員通信「あかるいほうへ」を毎月配布し、情報の共有と理念の実践を意識するよう工夫している。3)法人の5都県147ホームの事例発表会で「ありのままで…そして感謝」との題で1年間の入居者とのかかわりと変化を発表し、見事に優勝した。4)特製のタイルカーペットに床暖房、見通しの良いリビングに高級感ある居室と住環境と安全性に配慮したホームである。5)2年目とは思えないほど地域との交流が盛んである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①思いやりのある介護を ②いつも笑顔で ③環境整備の徹底をする 以上3点の理念を掲げて共有している。	「思いやりのある介護・いつも笑顔で・環境整備を徹底する」との理念を掲げている。カラフルでイラストや写真を入れ良く目立ち、常に見たくなるよう工夫した毎月の職員通信にミモザ市原の職場ミッションとして掲載している。職員個人ファイルを作り、研修レジメ・ミーティングレジメとともに挟み常に理念を意識できるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアによるイベント実施や小学校・中学校の職業体験の受入れを実施している。ボランティア団体主催の講演会にも呼ばれ、運営内容の説明会等を行った。	町会の花見や祭りの案内いただき参加している。市社協を通して多くのボランティアに来ていただいている。ボランティアの方に「楽しいまた来たい」と言っただき、入居者も職員も一緒に楽しんでいる。中学生の職場体験の受け入れなど地域との交流は2年目とは思えないほど盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入しており、開設前の運営推進会議で町会の方へ認知症についてご理解いただけるよう説明をしている。依頼があれば町会へ向けた認知症介護のアドバイスも行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所してもうすぐ2年を迎え、例年通り町会との連携を図っている。	町会・民生委員の方、地域包括支援センター・市職員、家族が参加し、運営状況、行事時の様子などを吹き出しコメント入り写真の資料で説明している。事故や職員、看取り、町会や学校の行事の情報など活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所が近く介護保険課、生活福祉課と連携を取りやすい。運営推進会議にも参加していただき意見を頂いている。	市役所が近く介護保険課、生活福祉課へは運営推進会議議事録などを通してホームの現状や取り組みを伝え、連携が良くとれている。地域包括の方は毎回運営推進会議に出席いただいております。要介護から要支援に改善した方の退去などを協力して行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、フロア出入り口はオートロックとなっているが、なるべくフロアドアの開放を心掛けている。運営規定や重要事項説明書において、原則身体拘束をしない旨を明記し、安心・安楽・安全なケアに取り組んでいる。	職場30分研修で身体拘束廃止研修と高齢者虐待防止研修を実施している。職員に研修報告書を提出させ、理解度の把握とともに業務にどのように生かしていくかを話し合っている。特にスピーチロックについては、職員同士で代替の言葉かけなどを話し合っている。	身体拘束廃止委員会を運営推進会議を活用して開催し、参加者に取り組み状況を報告することも検討されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行い、言葉や態度による虐待はないか等と注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護について研修を行い、よりよい支援の必要性を見定めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を読み上げながら、適宜、不安や疑問点がないか確認し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会を開催することで、意見、要望を寄せていただいている。またご家族の面会時、ご入居者の様子を報告すると同時に様々な相談をしている。	家族とのコミュニケーションを大切にしている。ミモザ市原通信に1ヶ月の生活状況や行事時の写真などを載せて毎月送付している。年2回家族会を開催し、家族からの意見や要望をお聞きする機会とするとともに、ご家族同士が話し合われる機会もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の実施とカンファレンスの機会を設けている。職員通信を発行してミーティング内容の蓄積を図り、よりよい施設作りに取り組んでいる。	毎月、2時間全員出勤扱いとしスタッフ会議を開催している。リーダーを決めてブレインストーミングを行い職員からの意見や提案をまず「やってみようよ！」と受け入れてみることから始めている。職員通信「あかるいほうへ」を毎月発行し職員のベクトルを合わせ入居者に「いつも笑顔で、思いやりのある介護」をできるより良いホームづくりに取り組んでいる。スキル手当の支給やマイスター制度による昇給基準の明確化や公平な評価、本社の介護技術研修やエルダー制度研修受講などスキル向上と職員育成に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当事業規定により、定期的に公平な人事評価を行っている。またメンタルヘルスの相談窓口を設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修の案内を出して参加を促している。社員登用制度や管理者候補者としての育成研修もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社研修では異なる地域やサービスの職員と横のつながりを持つことができる。近隣の同業施設とも交流を持ち、合同のレクやイベントへの招待も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い、ご本人の言葉を傾聴し、不安や要望をしっかりとサポートする姿勢を伝えることで信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談を行い、施設の実績等を踏まえながら、不安や要望をひとつひとつ解決していくことで信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご利用者状況を見させていただいた上で、ご家族のニーズ、ご本人の意思を尊重したサービス提供を行う。必要に応じて他サービスのご案内も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや掃除などの家事手伝いを日常的にお願いしている。またご入居者と職員による共同作業を楽しみながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真入りの生活状況の通信を郵送するとともに、面会時や電話にて、積極的にご本人の様子を報告・相談し、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊を原則自由としている。ご本人やご家族の希望により電話の取次ぎを行っている。	若い頃の写真を入居時に持参していただくようにし、馴染みの関係を把握するようにしている。友人や近所の方々が良く訪ねてくる。親族とホテルでの法事に出席し外泊する、毎週家族と外食する、買い物に行くなどの支援をしている。年賀状や手紙のやり取りのお手伝いや電話の取次ぎ、携帯電話の充電など、馴染みの関係を少しでも長く続けられるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度に差があるご入居者達の中に職員が介入することで、和やかに交流できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の相談に対し、丁寧な支援に努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に聞き取りを行う他、何気ない会話から小さな希望であっても見出すよう努めている。	入居時に利用者の「子供の時・仕事・趣味等」の生活調査を行って生活歴を知ってケアに活かす事を大事にしている。入居後は本人から心にヒットする事を聞き取り、PC内のケア記録に細かく記録している。毎日の様子が良く分かる様に写真や夜間帯の動画・音声も入れて記録し、動作・体調の変化等を共有している。利用者の本来の姿を知り、思いや意向を汲み取って深く関わるためにもどういケアを行うか話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談を行い、生活歴等について出来る限り情報収集できるようにしている。必要に応じてなじみのあるものを持ち込んでいた		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで過ごしていただき、その中で現状や変化を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族より要望を適切に聞き取り、また管理者、ケアマネージャーが主体となるカンファレンスを行い、よりよい介護計画を作成するようにしている。	家族からの安全に生活して欲しとの希望に配慮し、本人が望む事はできる限りケアプランに取り入れている。ケアプランは全職員の意見を聞いて作成している。計画作成担当者は利用者の課題や思いをもっと具体的なケアに繋げるために毎日カンファレンスを行って確認し言葉で伝えている。職員は利用者への想いも厚く、よく話をして楽しく介護する事が実感できる様に取り組んでいる。	毎日のカンファレンスでの具体的なケア方法・内容を支援経過記録やモニタリングシートに記録し、ケアプランの見直し等に活かす工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成し、出勤した職員は必ず確認している。気づいた点等は口頭や申し送りノートにて報告・連絡・相談し、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護併設の強みを活かしながら、グループホームの運営規定に基づく中で、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入している。地域ボランティアの方々に来ていただき、イベントの実施を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携についてご本人、ご家族に理解をいただいた上で、内科・整形外科・歯科の往診を実施していただいている。	かかりつけ医の受診は家族からの報告や薬の管理をして支援している。隔週ごとに内科・皮膚科・整形外科の往診が行われ血液検査や診察が行われている。毎週訪問看護師によるバイタル・巻き爪・褥瘡等のチェックと職員の相談に対応している。また、泌尿科・婦人科の受診は家族が対応し、急変時には往診医に連絡をし他の病院への搬送も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模と兼務の看護師を採用している。出勤時には健康チェックを行いアドバイスももらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会やご家族への電話連絡にて、情報交換を行っている。介護サマリー等の入院時に必要な書類をスムーズに提出している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における対応指針を示し、内容を十分に理解していただいた上で契約を結んでいる。	契約時に重度化の対応・医療連携について説明し同意を得ている。ターミナルケアについて往診医より説明し家族の了解を得て同意書に捺印している。看取り介護計画を作成しケアプランに入れて支援し、家族・医師と話し合い方向性を確認し安らいだ環境の中で過ごせる支援を行っている。看取り研修を行い職員の精神面のフォローと不安時には管理者が対応し、看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示や施設内研修により、急変や事故発生時の対応に備えているが、職員ごとの力量に差がある現状である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、その内1回は夜間想定としている。緊急連絡網を作成しており、職員への連絡が可能である他、町内会長との協力体制を築いている。	年2回小規模施設と合同での避難訓練は夜間想定と日中想定で、担当者の役割を決めて実施されている。「初期消火・通報・避難誘導・点呼等」と消火器の場所確認と使用方法訓練が行われている。消防署からは逃げ遅れた人の確認・伝達ワードの工夫等、また、日中と夜間では人員の差が大きいので、避難困難者はベランダで救助を待つ・地震時は建物内で待機等の考察を行い報告書を作成して周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ね全職員が優しい声かけや丁寧な声かけの実施ができています。	職員は利用者の個性を大事にし、お願いをして私は役に立っていると喜び、役割を持ち自信に繋がる支援を行っている。その人らしい生活が送れる様に、決めたスケジュールではなく、利用者のペースで・その人に合わせ・生活のリズムが作れる様にケア方法を統一してチームケアを行っている。入浴時にはタオルをかけて・トイレは戸を閉め・居室はノックと声掛けをし・話をするときには距離感を大事にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるようご利用者に確認を取っている。自身の想いを現せない方に対しては思いをくみ取る様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活ができるようにしている。フロアより部屋が好きな方へは無理な声かけはせず、ペースを崩さないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を持ってきているご利用者もいる。その人らしい生活は崩さず、強制はしないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のできるご利用者と一緒に作ることもあります。食事の準備や食事はご利用者と一緒に取り組んでいる。	職員が食事を盛り上げる館内放送をして始まりを告げ、好きなテーブルに座り、職員と一緒に食事をしながら会話が弾んでいる。業者の食材にひと工夫を加え、料理に絵を描いて盛りつけ楽しさを演出している。餃子の皮でピザづくり等のおやつレク、誕生日には手作りのケーキで祝い、外食レクでは寿司や和食を食べ、大きなイベントには家族も一緒に参加し、食事を楽しむ様々な工夫が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて医師の指示をいただき、食事量や水分量を記録して管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどのご利用者がご自身で口腔ケアを行っている。希望者は訪問歯科が週に1回ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りオムツを使用せず、トイレでの排泄を進めている。ポータブルトイレを使用しているご利用者もいる。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、定時に声掛けをしてトイレでの排泄を支援している。利用者が立ち上がる時の目的を感じ取り、便意のない人には定時に誘い、トイレとは言わないでさりげなく声かけをし、利用者を良く観察をしてケア方法を統一して支援している。毎日牛乳・ヨーグルトを飲み、便秘の時は家族・医師と相談をして下剤の活用をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を実施している。便秘状況は医師と相談しながら解決をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況に応じて午前入浴、午後入浴と対応している。ある程度の曜日は決めているが、希望によって前後することもある。入浴レクとして、全国湯巡りの入浴剤を楽しんだり工夫している。	月間の入浴回数を予定し、利用者の状況や希望に応じて午前・午後入浴が行われている。脱衣所は床暖房を入れ、浴槽はまたげる低い作りと手すりはその人に合わせて動かせる様に安全の工夫をしている。女性の喜ぶ入浴剤を入れ、1:1の入浴は歌や会話が弾み情報を得ている。皮膚の点検をし痣やかぶれは写真を取って職員の気づきを確認をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて昼寝の時間をつくっている。昼夜逆転にならないよう、日中はレクリエーション等行い活動している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局とも連携しており、病院と連携を図り正しい服用をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることは活かしてご利用者にも役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様や職員と散歩や買い物・食事にリクエストがある時は対応しています。地域の方々との交流は少ないので地域の祭りなどへ行けるよう検討している。	外出の時間を作って自立の人と車いすの人と一緒に散歩に出かけ、散歩時にコンビニ等に買い物にも行っている。町会の茶話会や夏祭り等の行事に参加し、2か月毎の外出イベントはバスを借りて全員で桜見・紅葉・菖蒲等の見学に出かけている。また、日を分け少人数で負担を少なくし・工夫をして公園等に出かけている。あきらめないで外出の時間を作り、気分転換や季節を感じられるように支援している。貸し切りで外出ボランティアの方やガイドつきでの小湊鉄道「会席と歌声列車」の旅は大好評であった。	入浴計画と同じように、外出計画表をつくり利用者個々がどの程度の日常外出が出来ているかを把握し、職員全員が分かるように見える化し意識を更に高めていくことを検討している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ご家族からお預かりして金庫で保管している。自身で持っている方もおり、職員と買い物へ出る機会もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しているご利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行っている。室温管理を行い快適に生活できるよう支援している。	リビングの温度調整や窓を開けて空気の入替えをし、湿度管理には気を配り、手洗い・やうがいをして感染症の予防に努めている。フローア・廊下・居室にはカーペットを敷いて暖かさが感じられ、転倒時の打ち身防止になり、汚れた時は取り替えて清潔保持に努めている。季節毎に節分の鬼の面等制作物を一緒に作成し、行事の写真を飾って見て思い出している。利用者はほとんどの時間をリビングで過ごし、職員は話題作りをして話をし、ボランティアによる読み聞かせ・演奏・フラダンスを見て楽しめる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は仲の良いご利用者が並べるようにしているが、独りになれる共有スペースはない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使いた物の持ち込みをしていた。状況を見ながら安全に生活できるようにしている。	居室はベッド・ローチェスト・クローゼット・カーテン・洋服掛けが備え付けられている。ローチェストや壁にはテレビ・誕生日の写真・位牌・塗り絵等が飾られて自分の部屋づくりとなっている。また、すべての居室には鏡・時計・カレンダーを飾って自分の顔や日・時間を感じられる様にしている。居室のベッド等の配置は起き上がりや歩きを予測して配置には気を配りしている。夜間の巡回を行って体位交換・パットの交換・トイレの付き添い・センサーにも対応して安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所には「トイレ」と書いてあり、ご自身で迷わず入れるように考慮している。段差を極力少なくして車椅子での移動もできるようになっている。		